

メモ

てんかん動画④
はこちら

自分の症状を 受診時にどう伝える？

受診の際に本人や目撃者が詳しく発作時の症状を説明できることが診断への近道です。受診のきっかけになる症状として多いのはけいれんや意識消失です。けいれんの場合は、姿勢、体の動き、顔や目の向きなどを、意識消失の場合は、開眼していたか、顔色はどうだったかなどの情報が診断に有用な場合があります。他にも、発作症状の出現時間(起きているときか眠っているときか)、どのくらい続いたのか(てんかんであれば通常数分以内に回復の兆しがある)、回復するときの様子(会話できたか、手足に力は入ったか)といった情報なども診断の手掛かりになります。これらは自分で詳しく説明できなくても、受診した医師の方から詳しく一つずつ聞かれることもあるでしょう。とはいえ、初めて症状が出現したときは、周囲の目撃者も慌ててしまいますので多くのことは確認できないと思います。しかし、何度か症状を繰り返している場合は、しっかりとその状況を確認してください。状況が許せば、発作の様子を動画撮影することも非常に有用です。

発作の症状以外にも、出生時のこと、子どもの頃の様子、学校や仕事のこと、生活での困りごとなど、一見症状とは関連がないようなことも聞かれるかもしれませんが、それらが時に重要な診断の手掛かりになる場合もあります。

